



2018年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2018年5月9日

上場会社名 株式会社 日本マイクロニクス 上場取引所 東
 コード番号 6871 URL http://www.mjc.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 長谷川 正義
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理本部長 (氏名) 齋藤 太 TEL 0422-21-2665
 四半期報告書提出予定日 2018年5月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト・報道関係向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2018年9月期第2四半期の連結業績（2017年10月1日～2018年3月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2018年9月期第2四半期	15,324	8.5	1,775	528.8	1,929	382.9	1,424	—
2017年9月期第2四半期	14,121	4.3	282	△65.6	399	△49.0	79	△67.0

(注) 包括利益 2018年9月期第2四半期 1,921百万円 (57.0%) 2017年9月期第2四半期 1,223百万円 (137.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2018年9月期第2四半期	36.57	—
2017年9月期第2四半期	2.03	2.02

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2018年9月期第2四半期	38,009	24,388	61.2
2017年9月期	36,502	23,281	60.2

(参考) 自己資本 2018年9月期第2四半期 23,266百万円 2017年9月期 21,992百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2017年9月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2018年9月期	—	0.00	—	—	—
2018年9月期（予想）	—	—	—	15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

配当予想の修正については、本日（2018年5月9日）公表いたしました「業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

3. 2018年9月期の連結業績予想（2017年10月1日～2018年9月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第3四半期（累計）	22,800	8.0	2,400	142.5	2,600	146.1	1,900	216.3	48.77
通期	30,600	7.5	3,300	118.7	3,500	122.4	2,600	125.2	66.74

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

連結業績予想の修正については、本日（2018年5月9日）公表いたしました「業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有
除外 1社 （社名） 株式会社MJCテクノ

（注）詳細は、添付資料P. 9 「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動）」をご参照下さい。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2018年9月期2Q	40,025,316株	2017年9月期	40,025,316株
② 期末自己株式数	2018年9月期2Q	1,070,044株	2017年9月期	1,070,044株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2018年9月期2Q	38,955,272株	2017年9月期2Q	39,172,491株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3 「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照下さい。

（四半期決算補足説明資料の入手方法）

四半期決算補足説明資料は2018年5月9日に当社ホームページへ掲載予定であります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	9
(セグメント情報)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、中国・欧州において、持ち直しの動きが見られることに加え、米国も堅調に推移しており、全体として良好な状態が続いております。日本国内におきましても、所得の回復が依然としてやや緩慢ですが、底堅い内外需を背景に景気の回復基調が続いております。

半導体市場においては、スマートフォンやサーバー等のアプリケーションのメモリ搭載量が増えたことで、DRAM、NANDのメモリ需要が大幅に高まった他、データセンター、車載、産業機器等向けデバイスの高速処理に対する要求から、先端ロジックの需要も増加しました。一方、FPD市場においても、スマートフォンのOLED採用、TVの大型化・高精細化等が進んだことに加え、車載パネル等の他のアプリケーション向け需要も増え始め、安定的に成長しました。

このような状況の下、当社グループは、長期的に当社が目指す姿を纏めた『MJC Future Vision』を策定し、「QDCCSS※を更に推し進めて品質と納期での競争力を高め、市場へ安心・安全を提供する事で『より豊かな社会の発展に貢献』する」企業を目指す活動に注力してまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高15,324百万円(前年同期比8.5%増)、営業利益1,775百万円(前年同期比528.8%増)、経常利益1,929百万円(前年同期比382.9%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益1,424百万円(前年同期は79百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益)となりました。

※QDCCSS(呼称:クダックス)

お客様の信頼を得ることが大切との考えから、製品の開発から製造、資材、物流、管理、システム構築のあらゆる段階において、次の6つを活動テーマとしてその改善及び改革に全ての社員の力を結集する当社独自の総合管理システム。

[6つのテーマ]

Q : Quality	(技術の向上・品質の維持)
D : Delivery	(納期の厳守)
C : Cost	(原価の低減)
C : Compliance	(法令遵守)
S : Service	(サービスの充実)
S : Safety	(労働・製品の安全)

<セグメントの状況>

(各セグメントの売上高は、外部顧客に対するものであります。)

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

① プローブカード事業

プローブカードは、ロジック向けが伸び悩みましたが、DRAM向けが底堅く推移した他、NAND向けが好調に推移したことで、全体としては増収となりました。利益面におきましても、売上高の増加に加え、プロダクトミックスの変化や稼働率が向上し、増益となりました。

この結果、売上高は13,235百万円(前年同期比17.3%増)、セグメント利益は2,698百万円(前年同期比225.7%増)となりました。

② TE事業

前連結会計年度の業績に貢献した半導体検査装置の需要が減少し、プローブユニットを含めたLCD検査関連は前年同期並みとなったものの、全体としては減収となりました。

この結果、売上高は2,088百万円(前年同期比26.4%減)、セグメント利益は266百万円(前年同期比52.1%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ1,506百万円増加し、38,009百万円となりました。これは主に、棚卸資産が745百万円、受取手形及び売掛金が355百万円それぞれ増加したこと等によるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ399百万円増加し、13,620百万円となりました。これは主に、短期借入金と長期借入金を合わせた借入金が344百万円増加したこと等によるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ1,107百万円増加し、24,388百万円となりました。これは主に、利益剰余金の増加1,034百万円等によるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の残高は、前連結会計年度末に比べ226百万円増加し、8,966百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により得られた資金は1,251百万円(前年同期比303.4%増)となりました。たな卸資産の増加額685百万円、売上債権の増加額289百万円、仕入債務の減少額249百万円等により減少しましたが、税金等調整前四半期純利益1,928百万円、減価償却費753百万円等により増加しました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により使用された資金は635百万円(前年同期は1,245百万円の支出)となりました。この主な内訳は、有形固定資産の取得による支出718百万円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により使用された資金は496百万円(前年同期は1,928百万円の支出)となりました。短期借入金と長期借入金の純借入額344百万円で増加しましたが、配当金の支払額389百万円、連結の範囲の変更を伴わない関係会社出資金の取得による支出303百万円等により減少しました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

最近の市場動向等を踏まえ、2018年2月7日に公表した2018年9月期第3四半期累計業績予想を見直すとともに、2018年9月期通期の業績予想を開示いたしました。詳細につきましては、本日(2018年5月9日)公表いたしました「業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2017年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,756	9,875
受取手形及び売掛金	7,862	8,217
製品	503	391
仕掛品	2,638	3,302
原材料及び貯蔵品	1,033	1,225
その他	1,099	1,080
貸倒引当金	△55	△65
流動資産合計	22,838	24,027
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,555	3,519
機械装置及び運搬具(純額)	2,389	2,603
その他(純額)	3,242	3,248
有形固定資産合計	9,187	9,371
無形固定資産	958	978
投資その他の資産		
投資有価証券	2,953	3,073
退職給付に係る資産	72	48
その他	658	667
貸倒引当金	△167	△158
投資その他の資産合計	3,517	3,630
固定資産合計	13,664	13,981
資産合計	36,502	38,009
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,195	5,027
短期借入金	769	872
未払法人税等	263	334
賞与引当金	562	600
役員賞与引当金	40	—
製品保証引当金	479	455
その他	2,503	2,598
流動負債合計	9,813	9,890
固定負債		
長期借入金	602	844
退職給付に係る負債	1,795	1,837
その他	1,010	1,049
固定負債合計	3,408	3,730
負債合計	13,221	13,620

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2017年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,018	5,018
資本剰余金	5,976	5,934
利益剰余金	10,011	11,046
自己株式	△943	△943
株主資本合計	20,063	21,056
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,661	1,743
為替換算調整勘定	180	397
退職給付に係る調整累計額	86	68
その他の包括利益累計額合計	1,928	2,210
新株予約権	193	220
非支配株主持分	1,095	901
純資産合計	23,281	24,388
負債純資産合計	36,502	38,009

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2016年10月1日 至 2017年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2017年10月1日 至 2018年3月31日)
売上高	14,121	15,324
売上原価	9,678	9,436
売上総利益	4,443	5,887
販売費及び一般管理費	4,160	4,112
営業利益	282	1,775
営業外収益		
受取利息	13	10
受取配当金	4	107
受取賃貸料	36	35
為替差益	64	—
その他	24	22
営業外収益合計	143	176
営業外費用		
支払利息	9	4
支払手数料	7	7
休止固定資産減価償却費	7	7
その他	2	2
営業外費用合計	26	21
経常利益	399	1,929
特別利益		
固定資産売却益	0	4
新株予約権戻入益	2	—
特別利益合計	2	4
特別損失		
固定資産売却損	2	—
固定資産除却損	0	6
特別損失合計	3	6
税金等調整前四半期純利益	399	1,928
法人税、住民税及び事業税	212	389
法人税等調整額	△32	△29
法人税等合計	179	360
四半期純利益	219	1,568
非支配株主に帰属する四半期純利益	140	143
親会社株主に帰属する四半期純利益	79	1,424

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2016年10月1日 至 2017年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2017年10月1日 至 2018年3月31日)
四半期純利益	219	1,568
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	548	81
為替換算調整勘定	456	288
退職給付に係る調整額	△0	△17
その他の包括利益合計	1,003	352
四半期包括利益	1,223	1,921
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,003	1,706
非支配株主に係る四半期包括利益	220	215

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2016年10月1日 至 2017年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2017年10月1日 至 2018年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	399	1,928
減価償却費	779	753
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△77	40
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	△2	5
賞与引当金の増減額(△は減少)	△18	35
製品保証引当金の増減額(△は減少)	25	△24
貸倒引当金の増減額(△は減少)	25	0
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△27	△40
受取利息及び受取配当金	△18	△118
支払利息	9	4
売上債権の増減額(△は増加)	△650	△289
たな卸資産の増減額(△は増加)	△256	△685
仕入債務の増減額(△は減少)	△449	△249
その他	733	△41
小計	472	1,321
利息及び配当金の受取額	18	117
利息の支払額	△9	△4
法人税等の支払額	△233	△182
法人税等の還付額	62	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	310	1,251
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△378	△322
定期預金の払戻による収入	449	496
有形固定資産の取得による支出	△1,239	△718
有形固定資産の売却による収入	1	4
その他の支出	△84	△104
その他の収入	5	8
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,245	△635
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	1,620	480
短期借入金の返済による支出	△1,766	△453
長期借入れによる収入	650	700
長期借入金の返済による支出	△752	△382
自己株式の取得による支出	△913	—
連結の範囲の変更を伴わない関係会社出資金の取得による支出	—	△303
配当金の支払額	△396	△389
非支配株主への配当金の支払額	△412	△147
ストックオプションの行使による収入	42	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,928	△496
現金及び現金同等物に係る換算差額	321	106
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△2,542	226
現金及び現金同等物の期首残高	11,419	8,740
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,876	8,966

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

当社の連結子会社でありました株式会社MJCテクノは、2017年10月1日付で当社を存続会社とする吸収合併により消滅したため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自2016年10月1日至2017年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1.	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2.
	プローブ カード事業	TE事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	11,283	2,838	14,121	—	14,121
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	11,283	2,838	14,121	—	14,121
セグメント利益	828	557	1,386	△1,103	282

(注)1. セグメント利益の調整額△1,103百万円は全社費用であり、報告セグメントに帰属しない管理部等に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自2017年10月1日至2018年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1.	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2.
	プローブ カード事業	TE事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	13,235	2,088	15,324	—	15,324
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	13,235	2,088	15,324	—	15,324
セグメント利益	2,698	266	2,965	△1,190	1,775

(注)1. セグメント利益の調整額△1,190百万円は全社費用であり、報告セグメントに帰属しない管理部等に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。